

「各教科等を合わせた指導」の授業づくりに資する 「単元構想シート」簡易版の開発 ー知的障害特別支援学校高等部における作業学習の実践からー

小原 一志・中村 くみ子・星野 英樹・最上 一郎*, 佐々木 全**

(令和4年2月1日受理)

I. 問題と目的

知的障害のある児童生徒を対象とする特別支援学校において「各教科等を合わせた指導」として、日常生活の指導、遊びの指導、生活単元学習、作業学習が実施されている。平成29年4月告示の特別支援学校学校小学部・中学部学習指導要領及び平成31年4月告示の特別支援学校高等部学習指導要領（以下、新学習指導要領）における「各教科等を合わせて指導を行う場合」には、「一部なのか、全部なのかに十分に検討する必要がある」「各教科等の目標及び内容に照らした学習評価が不可欠である」と示され、「各教科等を合わせた指導」において、授業者は各教科等の内容を基に具体的な指導内容を設定していくことが求められている。

岩手大学教育学部附属特別支援学校（以下、本校）においては小学部「遊びの指導」「生活単元学習」中学部及び高等部「作業学習」を教育課程の中心に位置づけている。本校では、令和2年度から「児童生徒の確かな力を育む学びを目指した授業づくり」を研究主題に掲げ、「各教科等を合わせた指導」と「教科別の指導」を関連付けた授業づくりに2年次計画で取り組んでいる。その中で「各教科等を合わせた指導」の各教科等の目標や内容を明確化するために示された「各教科等を合わせた指導における授業づくりの要領」に含まれる「単元構想シート」（田淵・佐々木・東ほか、2020）を授業づくりの過程で使用している。「単

元構想シート」は、学習活動と各教科等の目標及び内容を照合する作業をガイドし、教員の思考促進に資するツールである。

「単元構想シート」を使用した本校の教員によると、「各教科等の目標と内容が関連していることが確認できた」「児童生徒個々の目標や支援について各教科等の視点を踏まえて考えることができた」と報告している（中村・本間・高橋ほか、2021）。

その一方で、田淵・佐々木・東（2021）によると、「日々の授業者が感じる業務の負担感の解消が改善の主眼となる」と報告している。このことは、本校高等部においてこれを使用した教員9名によると、「各教科等の内容を考えるのが難しかった」「各教科等の内容の文章表記が分かりづらい」「具体的にどんなことを言っているのかが分かりづらく、難しい」との所感として表れている（本校高等部学部研究会議事録、2021.1.21）。すなわち、これは、「単元構想シート」においては新学習指導要領の記述を引用しているため、その記述について、実際に構想している学習活動と対照させて解釈することに労力と負担感があることの指摘である。

「単元構想シート」を授業づくりににおいて使用し、普及を目指すに当たっては、上記の労力と負担感を軽減し、円滑な使用がなされる必要がある。

そこで、本校では「単元構想シート」の使用を

* 岩手大学教育学部附属特別支援学校、** 岩手大学大学院教育学研究科

ガイドし、視認性に優れた補助ツールとしての、「単元構想シート」簡易版（通称、「単元構想シート GF.Light」）を開発した。本稿は、その開発過程と内容について報告し、有用性を評価するものである。

II. 開発過程

1. 「単元構想シート GF.Light」の構想

本校高等部では、「各教科等を合わせた指導」の作業学習を教育課程の中心に据えて指導を行っていることから、作業学習の実践における使用に焦点化したツールとした。

その上で、「単元構想シート」において選択された各教科等の目標及び内容について、選択があるものを特定することとした。すなわち、作業学習で使用される可能性のある内容をあらかじめリストアップしておくことで、教員は必要情報を円滑に探し出すことができる、また、それらの記述内容の解釈にも熟練しやすくなると考えた。

2. 「単元構想シート GF.Light」のための基礎データの収集

本校高等部の作業学習で取り扱われている各教科等の内容を明らかにするため、作業学習における学習グループ「作業班」、すなわち、木工班、陶芸班、手織班の担当教員（9名）が3つの単元（小単元数は各5つ、生徒数は23名）で使用した「単元構想シート」から、選択された各教科の目標及び内容に付してある通し番号をもとに集計した。この結果から、作業学習において関連する各

教科等の目標及び内容を特定し、「単元構想シート GF.Light」に収蔵するデータ内容とした。

具体的には、「単元構想シート」中の「各教科等の内容との関連」の欄に示された教科の目標及び内容を表す番号の記載数を教科ごとに集計し、その番号の出現頻度をまとめた。ここでは、いずれの作業班でも共通して選択していた「国語」、「数学」、「職業、家庭（職業・家庭）」とした。他教科の目標及び内容については、生徒の個別具体的な状況に即して選択されたものであり、使用頻度にばらつきが顕著であったことから、ここでは除外した。

3. 「単元構想シート GF.Light」の設計と内容

「単元構想シート」は、その操作を Microsoft Excel®をもって行うが、そこでの補助資料として「単元構想シート GF.Light」が活用できることを構想した。具体的には、Table 1 の内容を設計上のポイントとし、以下のとおり「単元構想シート GF.Light」の内容を整えた。これについて、本稿の末尾に資料1～3として付した。

(1) 具体的な学習内容検討への思考促進

「単元構想シート GF.Light」は、基礎データとして抽出収集した国語、数学、職業、家庭における教科の目標及び内容をリスト化した。

その上で、「単元構想シート」の機能である各教科等の目標及び内容の照合に係る思考の促進をより強化できるよう、「単元構想シート GF.Light」においては、リストの文章表記をキーワード化し、シートにおける文字数を削減した。キーワードは

Table 1 「単元構想シート GF.Light」設計上のポイント

	開発以前1年目	ニーズ	開発後2年目
使用方法	「単元構想シート」のみ使用	→	「単元構想シート」と「単元構想シート GF.Light」の併用
1	各教科等の目標及び内容を文章から読み取る	→ 文章表記による解釈の困難さ	→ 具体的な学習内容をキーワード化
2	授業者が白紙の状態から目標と内容を選択	→ 単元と各教科の関連を示す資料としての活用	→ 選択頻度の視覚化による選択の簡略化
3	Microsoft Excel®のシートをスクロールすることによって選択	→ パソコン操作による負担感の軽減	→ 「A3版,両面刷り,1枚」のシートでの一覧表形式

単元構想の際に具体的な学習内容を想起できるよう文章の内容を簡易的に示している。なお、「単元構想シート」と整合性を保つために教科の目標と内容を表す番号は共通である。具体的には、以下ならびに Fig. 1 の通りである。

「単元構想シート」の各教科等の目標及び内容から指導内容と関連が深い内容を筆者が抽出し、それらを高等部職員 9 名で文言等を検討・整理し、一覧表としてまとめた。ここでは、「単元構想シート」の教科等のシート同様に縦軸を小学部から高等部までの 7 段階で表示している。これは、新学習指導要領総則等編における「重複障害者等に関する教育課程の取り扱い」に示されている、各学部で対象とする生徒の実態を鑑み、必要に応じて下学部の目標や内容を適用する場合があることに配慮したものである。横軸を内容のつながりでそろえたことで小学部段階から高等部段階の系統性をもって活動内容を設定できるようにした。これについては Fig. 2 に示した。

(2) 作業学習における各教科等の目標及び内容選択の効率化

学習活動と各教科等の目標及び内容を照合する作業が円滑にできるよう、「単元構想シート GF.Light」においては、作業学習との関連が深い各教科等の目標及び内容については、選択された頻度によってあらかじめ色分けし、視認性を高めた。具体的には Fig. 3 の通りである。

分析対象としたすべての「単元構想シート」の各教科等の目標や内容を表す番号の総選択回数は 1,925 回、内訳は国語が 767 回、算数・数学が 530 回、職業分野が 530 回、家庭分野が 98 回であった。各単元の選択回数の平均値を 5 段階（5：2 回以上、

4：1 回、3：0.5 回以上 1 回未満、2：0.1 回以上 0.5 回未満、1：0.1 回未満）に分類しその頻度に応じて赤色の濃淡（5：濃赤～1：薄赤）をつけて可視化した。

具体的には、以下、ならびに Fig. 4 の通りである。「単元構想シート」記載番号の集計結果によると、国語において「161：文字の組み立て方を理解し、形を整えて書くこと。」「130：日常生活や社会生活、職業生活に必要な語句、文章、表示などの意味を読み取り、行動すること。」については 1 単元における選択回数が 2 回以上のため、5：濃赤で示している。反対に 162「用紙の中の文字の大きさや配列」等は 1 単元における選択回数が 0.1 回未満のため、1：薄赤で示している。（Fig. 4）なお、集計結果から選択回数は 0 回の内容については白色で示している。これによって関連の深さが可視化され、以前は、「白紙の状態」から教員が文章を読み取る時間を削減し、効率的に関連を確認できるようにした。

(3) 視認性の向上

「単元構想シート」によって各教科等の目標及び内容を照合する作業は、Microsoft Excel® のシートをスクロールすることによって行った。しかし、画面上での確認は、操作の方法やシートによっては前後の関係が読み取りにくいことやページの移動による操作時間による負担感があった。

そこで、「単元構想シート GF.Light」においては、視認性と一覧性を向上させるために紙媒体として印刷し、目視で確認できるようにした。

具体的には、作業学習と関連する国語、算数・数学、職業・家庭の 3 枚のシートを「A3 版、両面刷り、1 枚」の様式でまとめ、各々のシートで

① いろいろな筆記用具に親しむ	31 ⑦ 目的に合ったマスや行の大きさに応じた) 筆記用具	99 ⑦ 文字の形	100 ⑦ 点画の書き方、文字の形、筆順	161 ⑦ 文字の組み立て方、形を整えて書く	162
② 試写、なぞり書き	34 ② 平仮名や片仮名	101 ② 文字を構成する点画相互の位置関係	102 ② 読みやすい文字配列		163
③ 読み聞かせなど					
④ 絵本や図鑑、絵い読み	37 (3) いろいろな絵本や図鑑	103 (3) 言葉の物語、絵、文に	104 (3) いろいろな種類の		165
⑤ 身近な人の話	40 ア 出来事				
⑥ 簡単な事柄と語句などを結び付け					
⑦ 簡単な指示や説明を聞き、応じる					
⑧ 体験したことについて考える	45 イ 経験した				
	46 ウ 見聞きしたこと、あらましや自分の気持ち	109 ウ 見聞き、経験したこと、自分の意見が伝わる順序等	110 ウ 見聞き、経験したこと、自分の意見やその理由が伝わる順序や伝え方	170 ウ 話の中心	171

Fig. 1 「単元構想シート GF.Light」文章のキーワード化（国語の例）

小学部 2段階	小学部 3段階	中学部 1段階	中学部 2段階	高等部 1段階
11 (7) 言葉と気持ち、行動の結びつき	12 (7) 物事の内容を表す言葉の働き	78 (7) 経験したことを伝える働き	79 (7) 思考や感情を表す働き	140 (7) 社会生活で用いる言葉の働き
14 (4) 平仮名	13 (4) 姿勢や口形	80 (4) 発音や声の大きさ	81 (4) 発声・発音の調整	142 (4) 相手を意識した話し方
17	15 (9) 促音、長音、平仮名、片仮名、漢字	82 (9) 長音、拗音、促音、撥音、助詞	83 (9) 特殊音節の活用	144 (4) 送り仮名・句読点の使い方
	18 (7) 文の中における主語と述語の関係 助詞の使い方	84 (12) 同義語・対義語、上位語・下位語、同音異義語、多義的な意味を表す語句	85 (12) 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の活用	147 (4) 敬語の使い方
		86 (4) 主語と述語の関係、接続する語句の役割	87 (7) 敬語の活用	149 (4) 敬語の活用

・小学部段階から高等部段階の内容の系統性を横軸で整理

中学部 1段階	中学部 2段階	高等部 1段階
78 (7) 経験したことを伝える働き	79 (7) 思考や感情を表す働き	140 (7) 社会生活で用いる言葉の働き
80 (4) 発音や声の大きさ	81 (4) 発声・発音の調整	142 (4) 相手を意識した話し方

Fig. 2 「単元構想シート GF.Light」 系統性と学部間のつながり（国語の例）

職業	国語	数学	家庭
番号	番号	番号	番号
47 134	161 121	54 178	79 98
45 96	130 97	162 130	
43 88	108 89	110 49	
49 47	176 85	222 46	
59 45	150 82	127 39	
55 43	42 52	112 30	
63 42	195 46	46 9	
60 7	172 46	111 8	
9 6	142 39	100 7	
46 6	80 39	196 6	
12 4	110 14	56 5	
57 3	93 14	52 4	
7 2	155 12	104 3	
11 2	81 7	167 2	
13 2	47 4	83 2	
14 2	162 3	74 2	
19 1	151 3	70 2	
530	99 3	53 2	
	57 3	213 1	
	115 2	189 1	
	56 2	163 1	
	32 2	11 1	
	112 1	8 1	
	106 1	3 1	
	767	530	

Fig. 3 「単元構想シート」 教科を表す番号の選択回数

82	・作業学習と関連が深い(多く選択された)項目になるほど濃い色で表示				交じり文	言語の増加、活用
84	161 ㊦ 文字の組み立て方、形を整えて書く				接続の関係	使われる敬語の理解と使い慣れ
86	162 ㊦ 用紙の中での文字の大きさや配列				読や朗読	果の関係
88					読や朗読	果の関係
90					読や朗読	果の関係
92					読や朗読	果の関係
95 (7) 俳句	96 (7) 短歌や俳句	158 (7) ことわざや慣用句	159 (7) 古文	160 (4) 慣用句、故事成語	162 ㊦ 用紙の中での文字の大きさや配列	163 ㊦ 目的に応じた筆記具とその特徴
97 (4) 挨拶状、年賀状、暑中見舞い	98 (4) 身近なことわざ	161 ㊦ 文字の組み立て方、形を整えて書く				
99 ㊦ 文字の形	100 ㊦ 点画の書き方、文字の形、筆順					
101 ㊦ 文字を構成する点画相互の位置関係	102 ㊦ 読みやすい文字配列					

Fig. 4 「単元構想シート GF.Light」 選択頻度に応じた可視化（国語の例）

全体を俯瞰できる形とし、シートを行き来せずに確認できるようにした。なお、職業・家庭については中学部段階の職業分野・家庭分野とのつながりを保つ観点から1枚の中に分けて記載することとした。

4. アンケート調査の有用性の評価

(1) 評価の方法

「単元構想シート GF.Light」の有用性について、実際に使用した本校高等部教員（9名）へのアンケート調査を行い評価した。なお、9名中8名は、令和2年度に作業学習で計画されている3単元分及び令和3年度に作業学習で計画された3単元分「単元構想シート」の作成を2か年に渡って行っており、1年次は「単元構想シート」のみの使用、2年次は「単元構想シート」及び「単元構想シート GF.Light」を併用しながら授業づくりを行っている。

アンケート調査は、12の質問項目で構成し、5件法（「1：全く当てはまらない、2：あまり当てはまらない、3：どちらともいえない、4：当てはまる、5：よく当てはまる」）での回答を求めた。

回答については、回答の1～5について、それぞれ1点～5点を付して集計した。

その結果について、「Q0『単元構想シート GF.Light』は授業づくりにおいて有用であった。」を目的変数とし、その他の11項目を説明変数とし、菅（2013）のCS分析を行った。これには統計分析研究所株式会社アイスタットが提供する専用ソフトを用いた。この手順では、まず各項目について得点の満足率を算出する。満足率は、「5点」が回答数に占める割合とした。次に説明変数であるほかの項目について目的変数との相関係数を算出した。前者を縦軸、後者を横軸として散布図を作成した。その上で、便宜的に、満足率と相関係数の平均値をもって散布図を4分割した。これによって「満足率と相関係数が共に高い項目」「満足率が低いが相関係数が高い項目」「満足率が高いが相関係数が低い項目」「満足率と相関係数が共に低い項目」として視空間的に分類し、解釈することができる。

(2) 評価の結果

アンケート調査の集計結果をTable 2、散布図をFig. 5に示した。満足度と相関係数が共に高い項目に「Q1『単元構想シート GF.Light』は『単元構想シート』作成の際に役立った」「Q2『単元構想シート GF.Light』は各教科等の内容との関連を確認するのに役立った」「Q11『単元構想シート GF.Light』の内容は分かりやすいものであった」があり、これらは「単元構想シート GF.Light」の成果であると解釈した。

一方で、満足度が低く相関係数が高い項目に「Q3『単元構想シート GF.Light』は単元の計画に役立った」「Q8『単元構想シート GF.Light』は授業改善につながるツールだった」「Q9『単元構想シート GF.Light』は教育課程の改善につながるツールだった」があり、これらは「単元構想シート GF.Light」の課題であると解釈した。

なお、満足度が高く相関係数が低い項目に「Q7『単元構想シート GF.Light』は小学部段階から高等部段階の系統性の確認に役立った」「Q10『単元構想シート GF.Light』は視認性に優れていた」があった。満足度と相関係数が低い項目に「Q4『単元構想シート GF.Light』は生徒の目標やねらいの共有に役立った」「Q5『単元構想シート GF.Light』は具体的な学習内容の想起に役立った」「Q6『単元構想シート GF.Light』は単元の振り返りに役立った」があった。これらは、改善の優先順位が低いと解釈された。ただし、「Q5『単元構想シート GF.Light』は具体的な学習内容の想起に役立った」については負の相関が認められたため考察において特筆する。

IV. 考察

「単元構想シート GF.Light」は、「単元構想シート」の機能を補助すべく、各教科等の目標及び内容について、平易な表記と活動文脈に即した語句をもって、かつ、各学部段階順に配列し一覧とした。「単元構想シート GF.Light」の有用性を評価する上では、開発の意図と設計上のポイントをCS分析の結果と対照させた。

Table 2 アンケート調査結果

質問項目	平均	相関係数	満足率
Q0 「単元構想シートGF.Light」は授業づくりにおいて有用であった	4.7	—	—
Q1 「単元構想シートGF.Light」は「単元構想シート」作成の際に役立った	4.8	0.9	88.9
Q2 「単元構想シートGF.Light」は各教科等の内容との関連を確認するのに役立った	4.4	0.8	55.6
Q3 「単元構想シートGF.Light」は単元の計画に役立った	4.1	0.8	33.3
Q4 「単元構想シートGF.Light」は生徒の目標やねらいの共有に役立った	4.1	0.4	22.2
Q5 「単元構想シートGF.Light」は具体的な学習内容の想起に役立った	3.8	-0.3	0.0
Q6 「単元構想シートGF.Light」は単元の振り返りに役立った	3.9	0.1	33.3
Q7 「単元構想シートGF.Light」は小学部段階から高等部段階の系統性の確認に役立った	3.8	0.0	44.4
Q8 「単元構想シートGF.Light」は授業改善につながるツールだった	3.9	0.5	33.3
Q9 「単元構想シートGF.Light」は教育課程の改善につながるツールだった	4.0	0.6	33.3
Q10 「単元構想シートGF.Light」は視認性に優れていた	4.6	0.2	66.7
Q11 「単元構想シートGF.Light」の内容は分かりやすいものであった	4.7	0.7	66.7

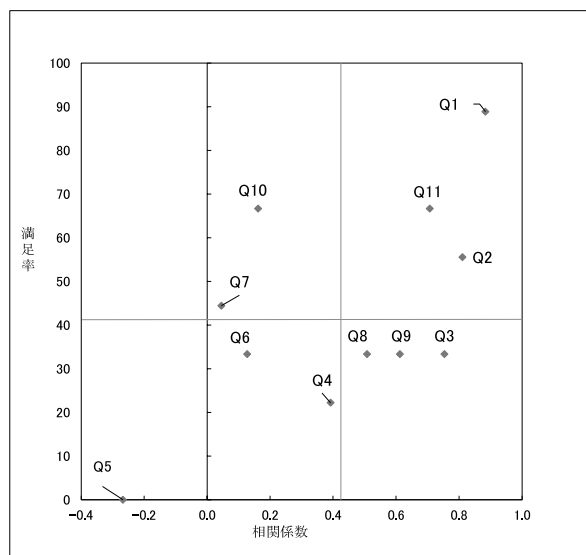


Fig. 5 散布図

1. 「単元構想シート GF.Light」の有用性

「単元構想シート GF.Light」の使用における成果として、「単元構想シート GF.Light」は、①『単元構想シート』作成の際に役立つこと、②各教科等の内容との関連を確認するのに役立つこと、③内容が分かりやすいということの3点があった。また、目的変数との相関はないものの「視認性に優れていた」ことも認められていた。

これらについては、開発の意図と設計上のポイントに一致していた。

すなわち、「単元構想シート」の補助資料として、その視認性をもって、内容理解を補助し各教科等の目標及び内容との関連を把握することに有用性

があった。

2. 「単元構想シート GF.Light」の有用性向上のための課題

「単元構想シート GF.Light」の使用における課題として、「単元構想シート GF.Light」①単元の計画に役立つこと、②授業改善につながることに、③教育課程の改善につながることに3点が求められた。

これらの対応として、誠実にこれらを実現できるツールとしてのブラッシュアップすることを目指すべきかどうかには一考を要するだろう。

なぜならば、「単元構想シート GF.Light」の開発の意図と設計上のポイントにこれらは一致しないからである。それは、そもそも「単元構想シート GF.Light」が「単元構想シート」の機能を補助すべく開発されたものであることに帰着する。上記の課題3つは、「単元構想シート」によってこそ実現を目指すべきものであり、「単元構想シート GF.Light」がそれを代理するものではないという考えもあろう。また、目的変数との相関はないものの「生徒の目標やねらいを共有に役立つこと」「単元の振り返りに役立つこと」も同様に、開発の意図と設計上のポイントに一致していなかった。これもまた「単元構想シート」自体の機能として求めるべき内容かもしれない。

最後に、目的変数に対して、負の相関を示した項目「Q5『単元構想シート GF.Light』は具体的な学習内容の想起に役立った」について言及する。

開発の意図と設計上のポイントは、「単元構想シート GF.Light」にある各教科等の目標及び内容の文章を読んで、学習内容を想起することを想定していた。しかし、実際の作業では、教員の思考においては学習内容の構想が先行しており、そこから各教科等の目標及び内容が想起される必要がある。すなわち、実際の作業の思考順序とは逆順の内容が、開発の意図と設計上のポイント、並びに質問項目に含まれていたということであろう。この思考順序は「単元構想シート」においては、そもそも前提とされているものであった。したがって「単元構想シート GF.Light」においては、改めて「学習内容から具体的な学習内容の連想に役立つこと」として再構築される必要があるだろう。

なお、目的変数との相関はないものの「小学校段階から高等部段階の系統性の確認に役立つこと」は開発の意図と設計上のポイントに一致していた。しかし、「単元構想シート」においてそもそも前提とされているのは、系統性の把握ではなく、多様な発達段階の高等部生徒と各教科等の目標及び内容の対応ができることであった。したがって「単元構想シート GF.Light」においては、改めて「すべての高等部生徒の実態に応じた各教科等の目標及び内容が選択できた」として検討される必要があるだろう。

3. 今後の課題

「単元構想シート GF.Light」は、アンケート調査の評価により、有用性が認められたと考える。その一方で、使用にかかる基本的な方針として「単元構想シート」の補助ツールとして果たす機能の明確化や活用方法の検討が必要である。

その上で、「単元構想シート GF.Light」を活用した授業実践からその有用性について精査することや、生活単元学習や遊びの指導の授業づくり、あるいは小学部や中学部の学部段階での開発などが期待される。

究者の皆様）に感謝申し上げます。

引用文献

菅民郎（2013）Excel で学ぶ多変量解析入門．オーム社．

岩手大学教育学部附属特別支援学校（2021）IFT26 研究紀要 児童生徒の確かな学びを目指した授業づくり

中村くみ子・本間清香・高橋幸・細川絵里加・佐藤佑哉・小原一志・上濱龍也（2021）児童生徒の確かな力を育む学びを目指して、教育実践研究論文集，8，1-5．

田淵健・佐々木全・東信之・阿部大樹・田口ひろみ・中村くみ子・岩崎正紀・藤谷憲司・上濱龍也・最上一郎・名古屋恒彦（2020）育成を目指す資質・能力を踏まえた「各教科等を合わせた指導」の授業づくりの要領の開発-特別支援学校の小学部におけるアクション・リサーチから-．教育実践研究論文集，7，1-6．

田淵健・佐々木全・東信之（2021）「各教科等を合わせた指導」における育成を目指す資質・能力を踏まえた授業づくり-小学部の生活単元学習における「単元構想シート」を取り入れた授業づくりの要領の検証-．岩手大学大学院教育学研究科研究年報，5，235-242．

田淵健・原田孝祐・佐々木尚子・大森響生・中村くみ子・藤谷憲司・高橋幸・本間清香・細川絵里加・佐藤佑哉・小原一志・東信之・佐々木全（2021）育成を目指す資質・能力を踏まえた「各教科等を合わせた指導」の授業づくりの要領（2）-知的障害特別支援学校中学部・高等部を対象とした「単元構想シート」-教育実践研究論文集，8，1-6．

謝辞

本研究について、ご理解ご協力をくださいました皆様（共同実践者である同僚諸氏並びに共同研

資料1 「単元構想シート GF.Light」【国語】

68

小原 一志・中村 くみ子・星野 英樹・最上一郎、佐々木 全

図表 「単元構想シートGF.Light」

項目	小学部1段階		小学部2段階	小学部3段階	中学部1段階	中学部2段階	高等部1段階	高等部2段階	項目
	内容		内容	内容	内容	内容	内容	内容	
言葉の 働き と生活 文化	言葉の 特徴や 使い 方	10 (7) 話し掛けへの注目	11 (7) 言葉と気持ち。行動の結びつき	12 (7) 物事の内容を表す言葉の動き	78 (7) 経験したことを伝える動き	79 (7) 思考や感情を表す動き	140 (7) 社会生活で用いる言葉の動き	141 (7) 人間関係を構築する言葉の動き	言葉の 特徴や 使い 方
		16 (4) 音声の高低や抑揚に触れる	14 (4) 平仮名	13 (4) 姿勢や口形	80 (4) 発音や声の大きさ	81 (4) 発声・発音の調整	142 (4) 相手を意識した話し方	143 (4) 話し言葉と書き言葉の違い	
			17 (9) 名詞・動詞・形容詞	15 (4) 促音、長音、平仮名、片仮名、送り仮名	82 (9) 長音、拗音、促音、撥音、助詞	83 (9) 特殊音節の活用	144 (9) 漢字と仮名・送り仮名・句読点の使い方	145 (9) 漢字仮名交じり文	
				18 (4) 同音異義語・類義語・対義語	84 (7) 同義語・対義語、上位語・下位語、同音異義語、多義的な意味を表す語句	85 (4) 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の活用	146 (4) 語彙の質と量を豊かに	147 (4) 思考に関わる語彙の増加、活用	
				19 (4) 文の中における主語と述語の関係	86 (4) 主語と述語の関係、接続する語句の役割	87 (4) 修飾と被修飾の関係、指示する語句の役割	148 (4) 接続する語句の役割、段落の役割	149 (4) 文と文との接続の関係	
言葉と 生活 文化	言葉と 生活 文化			20 (4) 正しい姿勢	88 (4) 普通言葉と丁寧な言葉の違い、丁寧な言葉を使う	89 (4) 敬体と常体の違いに注意して書く	150 (4) 日常よく使われる敬語の理解と使用	151 (4) 日常よく使われる敬語の理解と使い慣れ	言葉と 生活 文化
				21 (7) 物事のはじめと終わり	90 (4) 語のまとまり	91 (4) 内容の大体	152 (4) 文章の構成や内容の大体	153 (4) 文章を音読や朗読	
				22 (4) 図画を用いた調べ方	92 (7) 「いつ」「誰が」「何をした」時間的な順序で情報を整理する	93 (7) 理由をつけて説明する	154 (7) 理由や事例を挙げて説明する、話や文章の中心をとらえる	155 (7) 原因と結果の関係	
					94 (4) 必要な語や語句の書き留める、考えの相違を比較して整理する	95 (7) 理由をつけて整理する	156 (4) 情報を比較、分類	157 (4) 分解、分類、類推、系統化して情報を整理	
言葉と 生活 文化	言葉と 生活 文化	23 (7) 昔話	24 (7) 昔話や童話の歌詞	25 (7) 昔話や神話・伝承	95 (7) 俳句	96 (7) 短歌や俳句	158 (7) ことわざや慣用句	159 (7) 古文	言葉と 生活 文化
		26 (4) 言葉遊び	27 (4) やり取り遊び	28 (4) 伝え合う経験	97 (4) 挨拶状(年賀状、暑中見舞い)	98 (4) 身近なことわざ	160 (4) 慣用句、故事成語	160 (4) 慣用句、故事成語	
		29 (4) いろいろな筆記用具に触れる	30 (4) いろいろな筆記用具に親しむ	31 (4) 目的に合った(マスや行の大きさ)に応じた)筆記用具	99 (4) 文字の形	100 (4) 点画の書き方、文字の形、筆順	161 (4) 文字の組み立て方、形を整えて書く	162 (4) 用紙の中で文字の大きさを配列	
		32 (4) 筆記用具の持ち方、正しい姿勢(運筆の基本動作)	33 (4) 試写、なぞり書き	34 (4) 平仮名や片仮名	101 (4) 文字を構成する点画相互の位置関係	102 (4) 読みやすい文字配列		163 (4) 目的に応じた筆記具とその特徴	
		35 (4) 絵本	36 (4) 絵本や図鑑(描いた読み)	37 (4) いろいろな絵本や図鑑	103 (4) 簡単な物語、詩、紀行文	104 (4) いろいろな種類の本	164 (4) 必要な知識や情報を得るため	165 (4) 自分の考えを広げるため	
言葉と 生活 文化	言葉と 生活 文化	38 (4) 音声模倣、表情身振り、簡単な言葉で表現	39 (4) 簡単な事柄と語句などを話し付け	40 (4) 出来事の大体を取り					言葉と 生活 文化
		41 (4) 身近な人の話し掛けに注目、応答	42 (4) 簡単な指示や説明を聞き、応答	43 (4) 経験したことを基に考える	105 (4) 書き留め、聞き返しによる大体の捉え	106 (4) 簡単に書き留め、聞き返しによる大体の捉え	166 (4) 話し手が伝えたいことの中心の捉え	167 (4) 話し手の目的や自分が聞きたいことの中心の捉え	
		44 (4) 体験したことにについて考える	45 (4) 見聞きたこと、あらしや自分の気持ち	46 (4) 決まった言い方(挨拶、電話など)	107 (4) 話し事柄を考え、伝えたいことを決定	108 (4) 相手や目的に応じて、伝えたいことの明確化	168 (4) 目的に応じて伝え合うために必要な事柄の比較、選択	169 (4) 目的や意図に応じて比較・分類し、内容を検討	
		47 (4) 身振りや音声などで表す	48 (4) 挨拶、簡単な台詞	49 (4) 発音や声の大きさ	109 (4) 見聞き、経験したこと、自分の意見やその理由が伝わる順序や伝え方	110 (4) 見聞き、経験したこと、自分の意見やその理由が伝わる順序や伝え方	170 (4) 話の中心	171 (4) 話の内容	
		50 (4) 考えの伝え合い	51 (4) 経験した身近なこと(写真など)を手がかりに伝えたいことを想起、選択	52 (4) 書きたい題材に必要な事柄を集める	111 (4) エ 挨拶や目的に応じた話し方(自己紹介や電話の受け答え)	112 (4) エ 発音や声の大きさ、速さ、必要な話し方を工夫	172 (4) エ 言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫	173 (4) エ 自分の考えが伝わるように工夫(資料を活用など)	
言葉と 生活 文化	言葉と 生活 文化	53 (4) 身近な人物や生き物への気持ち、注目	54 (4) 身近な人物の行動や場面の様子	55 (4) 身近な人物の行動や場面の様子	113 (4) 伝え合った内容を基にした自分の考え	114 (4) 伝え合った内容を基にした自分の考え	174 (4) オ 目的や進め方を意識した話し合い、意見や共通点や相違点に着目したまとめ	175 (4) オ 互いの立場や意図を明確にした計画的な話し合い、考えを広げ、まとめ	言葉と 生活 文化
		56 (4) 知っている事柄や出来事などを指さしなどで表現	57 (4) 簡単な平仮名のなぞり、記述(自分の名前や物)	58 (4) 簡単な平仮名のなぞり、記述(自分の名前や物)	115 (4) エ (見聞きたことと経験したこと)伝えたいことの選択、伝えたいことの明確化	116 (4) エ (見聞きたことと経験したこと)書きたいことの選択、伝えたいことの明確化	176 (4) エ (集めた材料を)比較、伝えたいことを明確化	177 (4) エ (集めた材料を)比較、分類し、伝えたいことを明確化	
		59 (4) 文字に興味・関心	60 (4) 文字に興味・関心	61 (4) 文字に興味・関心	117 (4) 事柄の順序に沿った簡単な構成	118 (4) 事柄の順序に沿った簡単な構成	178 (4) イ 内容ごとの段落づくり、段落前後の関係に注目した文章の構成	179 (4) イ 筋道の通った文章となる文章全体の構成	
		62 (4) 文字に興味・関心	63 (4) 文字に興味・関心	64 (4) 文字に興味・関心	119 (4) 文の構成、語句の使い方	120 (4) 事実と自分の考えとの違いを相手に伝える	180 (4) ウ 自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にする	181 (4) ウ 事実と感想、意見などを区別して書くなど、自分の考えを伝える	
		65 (4) 文字に興味・関心	66 (4) 文字に興味・関心	67 (4) 文字に興味・関心	121 (4) エ (自分の気持ちによる)	122 (4) エ 文章を読み返す習慣、身に付けた知識(話と語の働きなど)を基にした確認	182 (4) エ 相手や目的を意識した表現	183 (4) エ 文章全体の構成や書き表し方	
言葉と 生活 文化	言葉と 生活 文化	68 (4) 文字に興味・関心	69 (4) 文字に興味・関心	70 (4) 文字に興味・関心	123 (4) 伝え合い	124 (4) 内容や表現のよいところ	184 (4) オ 書こうとしたことが明確になっているかななどの観点、自分の文章のよいところ	185 (4) オ 文章全体の構成や書き表し方	言葉と 生活 文化
		71 (4) 文字に興味・関心	72 (4) 文字に興味・関心	73 (4) 文字に興味・関心	125 (4) ア 想像	126 (4) 情景や場面の様子、登場人物の心情の想像	186 (4) ア 登場人物の行動や心情や叙述を基に捉える	187 (4) ア 登場人物の相互関係や心情を描写を基に捉える	
		74 (4) 文字に興味・関心	75 (4) 文字に興味・関心	76 (4) 文字に興味・関心	127 (4) 時間的な順序や事柄の順序	128 (4) 時間的な順序や事柄の順序	188 (4) イ 段落相互の関係、考えとそれを支える理由や事例との関係	189 (4) イ 事実と感想、意見などとの関係、文章全体の構成、要旨	
		77 (4) 文字に興味・関心	78 (4) 文字に興味・関心	79 (4) 文字に興味・関心	129 (4) 日常生活に必要な語句、文章など	130 (4) ウ 日常生活や社会生活、職業生活に必要な語句、文章、表示	190 (4) ウ 登場人物の心情や情景の具体的に想像	191 (4) ウ 人物像を具体的に想像や表現の効果	
		80 (4) 文字に興味・関心	81 (4) 文字に興味・関心	82 (4) 文字に興味・関心	131 (4) エ 中心となる語句や文の明確化	132 (4) エ 中心となる語句や文の明確化	192 (4) エ 文章と図表を関連付けた読み取り、必要な情報の取捨選択	193 (4) エ 文章と図表を関連付けた読み取り、必要な情報の取捨選択	
言葉と 生活 文化	言葉と 生活 文化	83 (4) 文字に興味・関心	84 (4) 文字に興味・関心	85 (4) 文字に興味・関心	133 (4) オ 伝えたことと感想を伝えること	134 (4) オ 伝えたことと感想を伝えること	194 (4) オ 理解したことを基に感想や考えをもつこと	195 (4) オ 理解したことを基に考えをまとめること	言葉と 生活 文化
		86 (4) 文字に興味・関心	87 (4) 文字に興味・関心	88 (4) 文字に興味・関心	135 (4) エ 中心となる語句や文の明確化	136 (4) エ 中心となる語句や文の明確化	196 (4) エ 文章と図表を関連付けた読み取り、必要な情報の取捨選択	197 (4) エ 文章と図表を関連付けた読み取り、必要な情報の取捨選択	
		89 (4) 文字に興味・関心	90 (4) 文字に興味・関心	91 (4) 文字に興味・関心	137 (4) エ 中心となる語句や文の明確化	138 (4) エ 中心となる語句や文の明確化	198 (4) エ 文章と図表を関連付けた読み取り、必要な情報の取捨選択	199 (4) エ 文章と図表を関連付けた読み取り、必要な情報の取捨選択	
		92 (4) 文字に興味・関心	93 (4) 文字に興味・関心	94 (4) 文字に興味・関心	139 (4) エ 中心となる語句や文の明確化	140 (4) エ 中心となる語句や文の明確化	200 (4) エ 文章と図表を関連付けた読み取り、必要な情報の取捨選択	201 (4) エ 文章と図表を関連付けた読み取り、必要な情報の取捨選択	
		95 (4) 文字に興味・関心	96 (4) 文字に興味・関心	97 (4) 文字に興味・関心	141 (4) エ 中心となる語句や文の明確化	142 (4) エ 中心となる語句や文の明確化	202 (4) エ 文章と図表を関連付けた読み取り、必要な情報の取捨選択	203 (4) エ 文章と図表を関連付けた読み取り、必要な情報の取捨選択	

「各教科等を合わせた指導」の授業づくりに資する「単元構想シート」簡易版の開発

69

